

第12回 夢アイデア

「お隣さんをつなげる窓を作ろう！ ～寄り添う福岡を目指すためのヒント～」

私はあることをきっかけに数年前からドイツ語を勉強し初めました。大学などで勉強した経験はなく、全くの初心者です。当初は、独学で文法を勉強していたのですが、しかし、学習のレベルアップへの欲求と、ひとりのさみしさがつのり、同じ志を持つ同志が欲しくなりました。

そんな時、福岡市役所で、あるチラシを発見しました。それは、外国の文化・体制を学ぼうという趣旨の催しの案内でした。それぞれ主催の欄に、福岡に拠点や支部を置く、各国の親善協会や団体の名前が書いてありました。

すぐに自宅でインターネットを用い、目指していた、西日本日独協会を見つけ出すことができました。また他にも、福岡デンマーク協会、福岡EU協会などの世界へつながる「窓」が多く開かれていることを知り、あらためて、福岡がグローバル都市であることを実感し、驚きました。たしかに思い返せば、私の住む地域には、オイスカ西日本研修センター（主にアジア諸国から若者が、日本の語学・農業などを研修する施設）があり、研修生と幼いころ交流をしたことがありまして、最近では百道だけでなく天神界限でも外国人ビジネスの方を見かける機会や、道案内をする機会が増えました。

今では、日本人に限らず、外国の友人とのつながりという予想をしていなかったうれしい展開に発展しています。

交流の中で皆さんから聞いた話、自信の体験をもと福岡を始め日本でのさらなる国際交流の発展への提案をしたいと思います。

1.「窓」が欲しい人はどんな人達だろう？

①来日・来福したお隣さん

やはり、1番目に必要としているのはお隣さん方だと思います。（「外国人」という言葉がどこもなく冷たく感じるので、ここでは私の好む本の表現を引用して「お隣さん」とお呼びしたいと思います。）

お隣さんは、留学生、やビジネスや外国で知り合い国際結婚されて来日・来福された、日本語を少し理解し話せる場合や、日本語がまったく話せない場合などいろいろな境遇の方がいらっしゃいます。もし、私たちが、同じ境遇だったとしたらどうでしょうか？誰かと話がしたい、日本に馴染みたい、でも言葉が通じない、機会がないなど問題が多く出てくるはずですよ。それはきっと、心細いと思うのです。

②グローバルな若者

2番目は、外国語を学んでいる若者です。

現在外国語を大学で勉強している学生や、ビジネスや趣味がこうじて勉強する社会人などです。

大学生は、在学中授業で外国語に触れる機会があり、留学などでさらに勉強することができます。しかし、中にはより勉強がしたいと思いがあっても関わらず、学校のカリキュラムの関係で途中で「窓」が閉ざされてしまう方、せっかく外国語の知識があるが卒業などを機に使う機会がなく忘却してしまう方、など意欲があるが発揮する場、勉学の場がなくなり燃っている若者が多くいました。

③経験豊富な先輩方

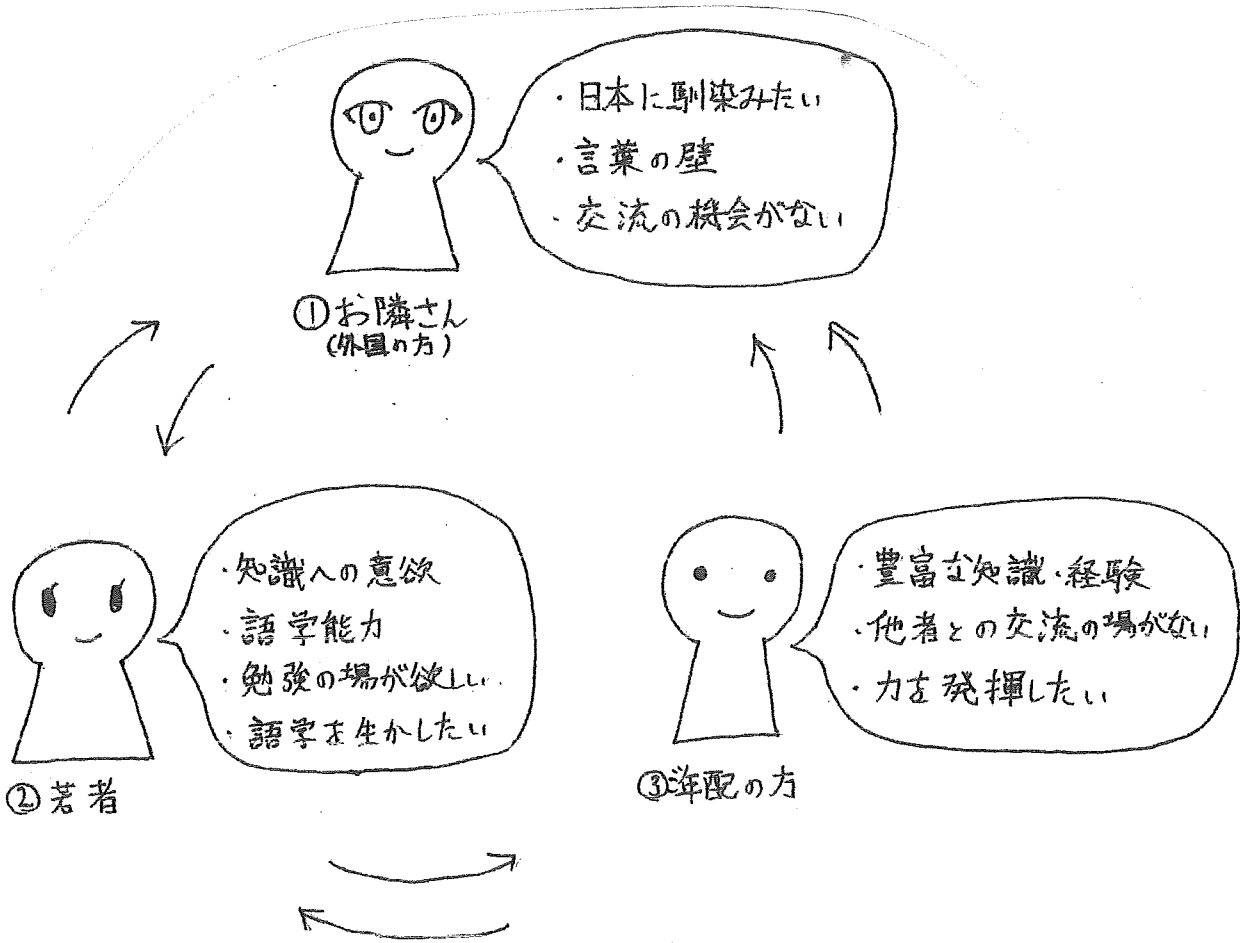
3番目は外国や福岡などの文化に教養のあるご年配の方です。

私が所属する外国についての交流会での講演などの催しは、若者よりご年配の方の参加者の割合が多くあります。皆さんは、若かりし頃に外国への留学経験などがあり、外国語に限らず日本の文化の知識が豊富な方ばかりでした。しかし、普段の生活の中では周囲に外国について語らう仲間がおらず、その知識を発揮できずいるとのことでした。講演会にお隣さんが参加した際は、若者より熱心に聞き入り、質疑応答の場面では、かぶりついて質問されていました。

まとめ

- ①お隣さん…日本に馴染みたい思いがあるが、言葉の壁や話をする機会がなく孤立している
- ②若者…知識を吸収する意欲、語学知識があるが、勉強の場などがなく、燃っている
- ③年配の方…豊富な知識・経験があるが、話をする場・機会がなく力を発揮できずにいる

参考図A参照



2.「窓」の形提案

○ボランティア参加・祭りの参加

・観光ガイドボランティア

若者とご年配の方の知識・能力を発揮できる方法を考えました。それは、観光ボランティアです。観光ボランティアというのは、外国語が堪能な方が市町村などに登録し、その地域の歴史・文化をお隣さんとその地を巡りながら、外国語で説明しもてなすというものです。7年後のオリンピック時には、現在より多くのお隣さんの来訪が予想されます。

先駆け、東京ではご年配の方のボランティア投入が行われているそうです。アジアの玄関・福岡もさらに積極的にボランティアの投入を検討する必要があるでしょう。

ご年配の方や福岡の文化・歴史に詳しい方に講師になっていただき、若者が講習を受けあらためて福岡の良さと知識を得るといふ形、ご年配の方と若者がペアになりお互いに補いながらボランティア活動をする形、講習を受けた日本人と在住のお隣さんや留学生がペアになり観光ボランティアとして活動する形など、多くの可能性が膨らみそうです。

・祭りへの参加呼びかけ

福岡は国民性なのか、毎月お祭りや催しが開催されています。(市民マラソンやどんたくなど) そういった催し参加のお知らせを積極的に、大学や市民の集まる場所などにさらに目を引くように工夫し公開してはどうでしょうか。

県や市のHPに外国語対応で公開されているのを拝見しましたが、文章での説明がページの大半を占め、情報量が多く伝わりにくさを感じました。主要な情報をページ始めに箇条書きにし、催しの写真(前回の情景など)や写真などの視覚情報を増やすと理解しやすく、内容も理解しやすくなるのではないかと考えます。

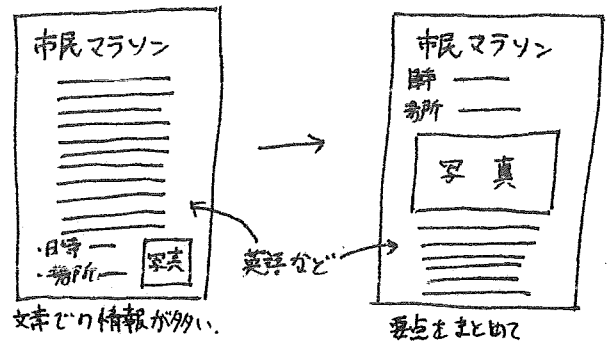
参考図B

・観光ガイドボランティア

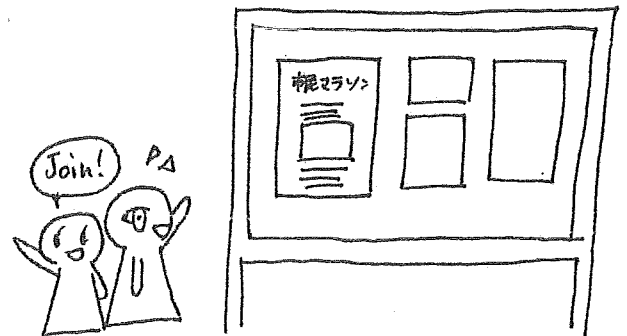


・祭りへの参加呼びかけ

現在のHPやポスター



大学など人の集まる掲示板などに



○福岡ワールドマップ

実際に自身が外国で生活するようになった時、観光で訪れた時、困ることがあるのではないかと考えました。友人に尋ねると、「交通網や飲食店など便利な物が多いけれど、情報が多すぎて理解ができません。」といわれました。

前述のように視覚情報、目で楽しみ、親しみのある場所になるように提案をしたいと思います。

・飲食店マップ・HP

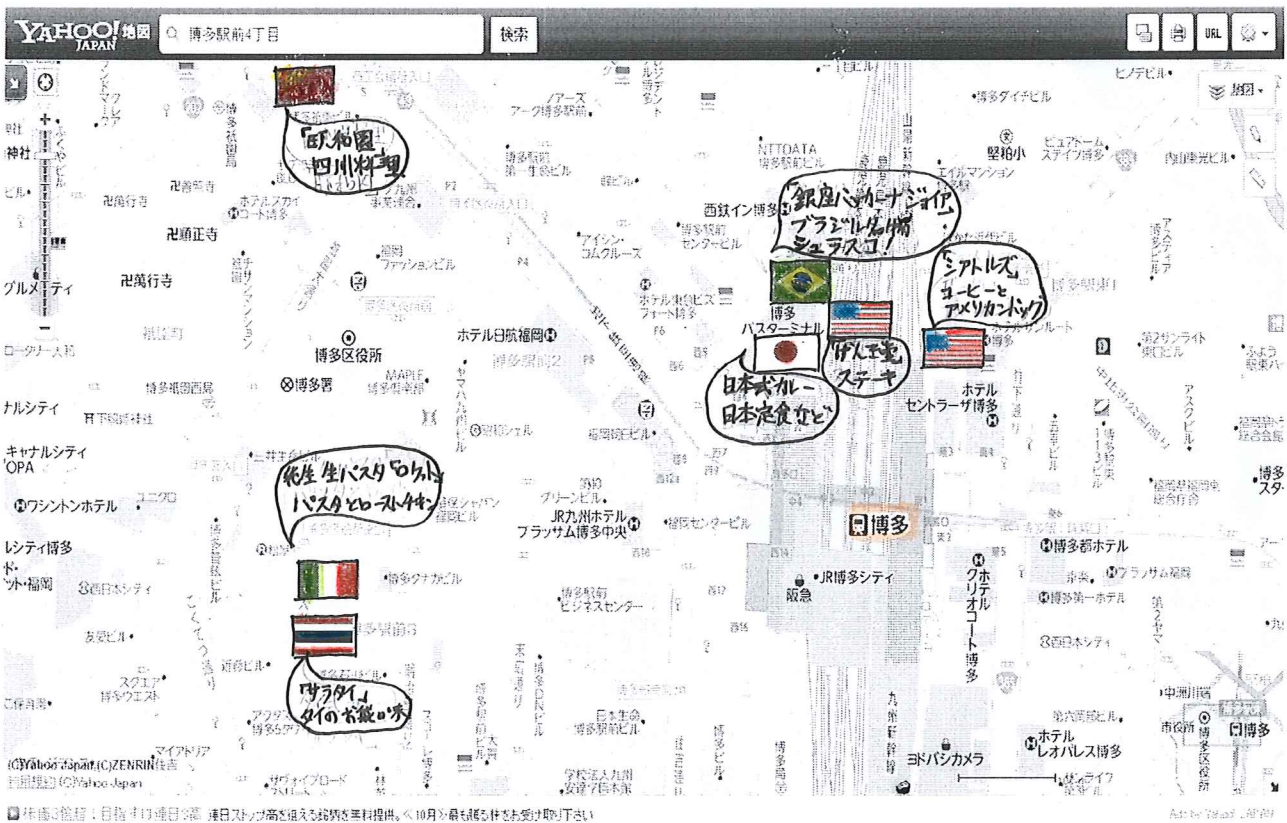
福岡は駅を中心として、多くの飲食店などがひしめき合っています。もしも、来福したてのお隣さんが、日本食を食べたい、母国の物を食べたいと思ったとします。しかし、多くの店は看板がカタカナ・漢字で書かれ、または、店が多すぎて見つけることができないなど、すぐに目当ての店を見つけ出すのは困難に思えます。

そこで、世界で一番使われている、図案を使いたいと思います。それは国旗です。

各駅や地域ごとに飲食店などの地図を作り、国旗の絵、お店の名前、お店の特色を一言書くのです。中華料理のお店ならば中国国旗、インドカレーのお店ならばインド国旗、世界の輸入雑貨をそろえた店ならば、地球儀の絵を載せる、題して、「福岡ワールドマップ」です。

飲食店以外にも、福岡県庁や市町村のHP内に掲載されている、各国の親善協会・団体の場所を表した地図や、観光マップの各国の大使館・領事館の所在地に貼るなど、利用の幅は広いと思います。

参考図C



・英語版、日本語版 など

地図: yahoo!地図 <http://map.yahoo.co.jp/>

国旗: Wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E6%97%97%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>

・福岡市内を走るループバスの路線案内の図案化

天神周辺を歩いていると、頻りに観光で来福されたお隣さん方にバス乗り場やどのバスに乗ったらいいの、といった質問をされます。

福岡市内には、中心地域の天神～博多駅を循環する100円バスや観光巡回バス・ぐりーんが運行しています。なぜ、お隣さんが戸惑うのかを調べ、3つの難点を下記にまとめました。

- ①案内板が小さい
- ②各停車位置の説明がわかりにくい
- ③案内板の位置が高い

①・③は、視界に入らないことが原因だと思われます。

巡回バスの案内板のサイズは、隣に設置してある市バスの電光運行掲示板の半分以下のサイズ(長さが40～50cmほど)で、設置場所がバス停によっては地面から2m以上、バス停の屋根からぶら下がるような形式になっています。身長150cmの私はほぼ真上を向かなければ見えません。

全体のサイズが小さいため、文字も小さくなっています。ご年配の方や子供も見えづらい可能性もあります。

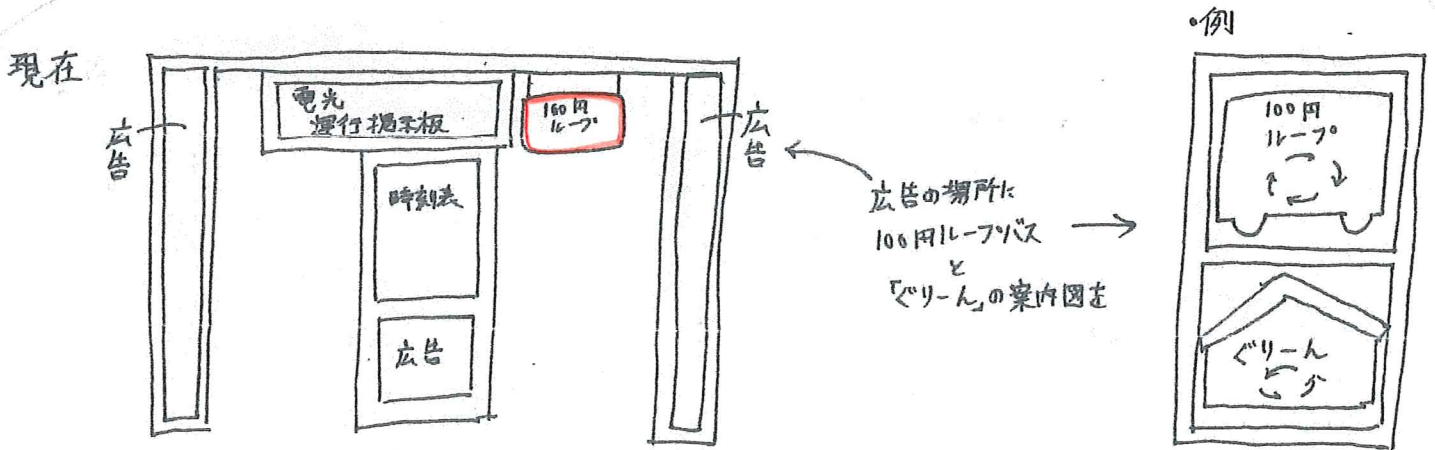
②は、各バス停・スポットが番号で表示されていることです。付属して、バス停名・スポット名が書かれています。ほぼ漢字のみで表記されています。

市営地下鉄の案内板をお手本にし、各スポットを表す図案とバス停名を漢字とローマ字の併用での表記を試みるのはどうでしょうか。福岡市市営地下鉄の図案表示はわかりやすいと、日本国内でも評判であると聞いたことがあります。

案内板の位置も、低い位置に設置し、文字も大き目に表記するとわかりやすいと思います。

図案は、市民や大学生やデザイナー関係の専門学生がら募集をかけると、活気づくのではないかと考えます。

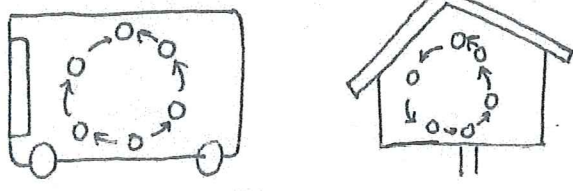
参考図D



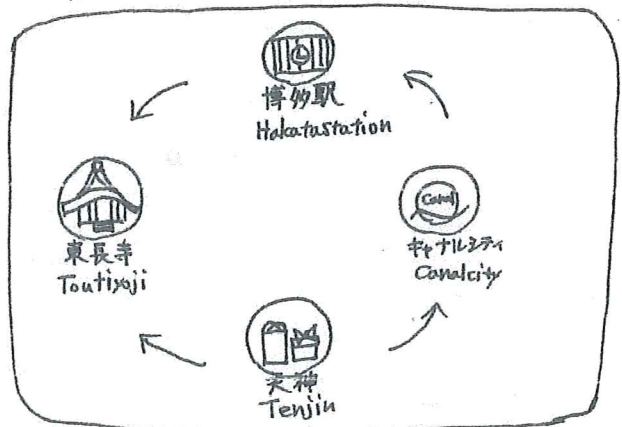
●案内板の形

- ・それぞれのバスの形・色
- ・和風の掲示板形
- など、それぞれが目を引くようにする。

拡大 ⇒



例: 各バス停を図案・漢字・ローマ字で表記



○場所の提供

・市民にもっと開かれた場所を

各国の親善協会支部や団体が福岡に拠点をしています。しかし、どの協会も宣伝と活動が奥ゆかしく、会員以外の市民への認知度が低いようです。

多くの団体は事務所と活動場所を別にしてしています。講演などの活動をするには、ある程度の人数が集まるため、事務所では対処できないからです。また、活動に興味のある方が初めて訪れる場合、事務所のドアを叩くよりも、実際の活動風景を見て、体験した方がよりわかりやすく、輪に入って行くことが容易にできるのではないかと思います。

しかし、活動場所探しに苦戦しているのが現状です。

天神にアクロス福岡(貸会議室やコンサート大ホール、パスポートセンターなどがある建物)内に国際国際交流などを目的とした施設があるのですが、スペースが小規模なため、実際場所をおかりした際には参加者を絞らなければいけません。また、個室が1部屋のみのため、同日行われていた他団体の留学生のための日本語教室が部屋の隅で行われていました。

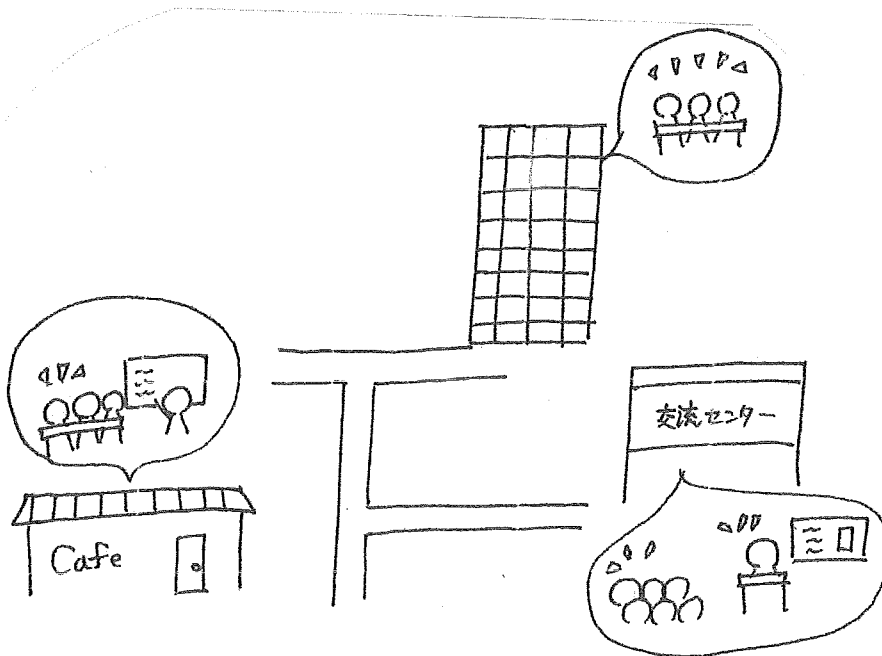
他の公共の施設に、福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」や、福岡市男女共参画推進センター「アミカス」が開かれているようです。どちらも探し出す際に時間がかかったと伺いました。

県内・各市町村にある、そういった開かれた場所の情報公開がよりなされれば、活動の機会、幅がより増えると思います。また、公共の場所で行うことで、人の目に触れる機会が増え広報活動につながるのではないのでしょうか。かつての私のように、居場所を探す日本人やお隣さんの交流への手助けになることが期待できます。

公共の場所以外に、カフェの個室を1室かりて、語学教室を開いている場合もありました。そこでは、部屋の使用代の代わりにランチをそこでとることを条件にしていました。お店側も宣伝活動の一環となって、双方に利益のある形になっています。

飲食店などに空き部屋などの公募をし、活動場所を広げ、色々な交流の機会が生まれる可能性を期待できそうです。

参考図E



3.「窓」があったら

以上のことが、私の提案となります。

今回記した提案は、沢山の方と一緒に歩み、気が付いたものです。ふれあいの中で、同じ目線に立つことで再発見をする機会が増え、視野がとても広がったのではないかと考えています。以前の私では考えもしなかったでしょう。実際に私自身が外国でそこのお隣さんとして暮らしたとしたりさらに気が付くことがあることでしょう。要望は絶えることはありません。

この提案が、若者とご年配の諸先輩方、日本人とお隣さんといった、年齢や国籍の壁を越える交流のための開かれた窓の一つとして機能し、孤独なひとが1人でも減り、つながりが増えていったとしたらうれしいことだと思います。

